

加藤 まこ

KATO Mako



reflection

再生パルプ、鏡、毛糸

reflection

鏡に映る赤い目をした自分がある。苦しそうで、何かに押しつぶされそうで、でも、言葉にできなくて。何か、打ち明けたい心のもやもやは言語化できず、重い塊になり心に蓄積されていきます。ずっとこの心の弱さのようなものと戦っては負けてきました。しかし、この苦しさに立ち向かってくれる存在もありました。ふと見上げた空の色が何層にも色が重なり深く見えたり、道端に生える一輪だけの花に生命力を感じたりと心の内からふつふつとエネルギーとなってくれる存在がありました。いつも何か分からないエネルギーに潰されては支えられ、いつも立っています。

エネルギーについて考え続け、【感情】が人を動かすエネルギーだと感じました。

感情には2種類あるんだそうです。喜怒哀楽といった強い感情をエモーションといい、言葉にできない淡い感情をアフェクトと言うんですって。人間の感情はほとんどエモーションではなくアフェクトで、私たちはそんな感情たちと共に生きています。言葉にできない淡い感情だからこそ繊細で、強いエネルギー量で心に入り、蓄積していきます。どうにも立ってられない時というのはエモーションという強い感情は現れません。そんな時はアフェクトの積み重ねで、濁った淡い感情が明快化されず心に蓄積され続ける。そして、ある瞬間ポキッと心から何かが折れるような音が聞こえる。それが鏡に映る赤い目をしたわたしを作る正体でした。

人って弱いんです。日々、大量のアフェクトの積み重ねで、そんな淡いもので簡単に涙が溢れ、繊細な感情だからこそ強い影響を及ぼし、心が弱るんだと思います。。

リフレクションは反射・反映・内省を意味します。弱い心の自分を内省しても明快になることはなかったアフェクト。悩み、目の前が無彩色に感じるがよくありました。[reflection]は目の前に立ち、鏡に映る自分が立派で、堂々とした様子が反射されるよう、強く、鮮やかに私を肯定します。濁ったアフェクトの蓄積から解放してくれる作品です。